

長崎高教組 春の足音

発行
〒850-0013 長崎市中央2丁目2番5号
長崎高教組会館 長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 平井秀治
一部 10円

高教組メールアドレス
naga-kks@fs
inet.or.jp

「一緒にやってみよう！」

分会で あたたい顔の見える運動を

「4月から組合に入りませう」

6人

者1人、再任用者3人です。この事例が示すように、年度替わりのこの時期に

「一緒にやってみよう！」という声で、赴任して来た教職員をどれだけ励まし元気づけるか、容易に想像できません。「あたたい顔、顔の見える高教組運動」を各職場でとりくみましょう。

各職場ですべての教職員に加入の声かけを行うことが大切です。

「組合の先生にようこそ」で元気を楽にして声かけをしよう

新年度からの組合加入申し込みが書記局に6人から届きました(3月末現在)。その内容は、職場に変わりの人で新規加入1人、県内転勤を機に1人、県外からの転勤

昨年度、新しく組合に加入した人数は、47人でしたが、新規採用者が5人加入したことは新たな展望を示すものとなり

昨年度、新しく組合に加入した人数は、47人でしたが、新規採用者が5人加入したことは新たな展望を示すものとなり



▲おめでとうの声をかけながら、勧誘パンフを手渡す組合員
春の陽ざしの中
「おめでとう!」と組合勧誘の呼びかけ

4月1日、2011年度新規採用者(170人うち高校42人・事務職19人)の辞令交付がおこなわれ、午後からは長崎県総合福祉センターで研修会が開催されました。高教組は例年、お祝いのごととともに組合への勧誘パンフを配布しています。この日は、本部・長崎支部から7人が参加し、「おめでとうございます」と声をかけながら、教文誌や全教共済のパンフが入った勧誘袋を新採者一人ひとりに手渡しました。中にはかつての教え子と再会という場面もあり、和やかな時間となりました。

こちら書記局

◆分会長を盛り上げる

組合の最前線は、各職場の「分会長」さんである。分会長は、職場の動きに目配りや気配りが求められる立場である。また、月2回の本部からの文書を手にし、整理したり、支部などの会議に出席したりで、かなりの時間をこうした業務にさくことになる。各職場では、分会長の役割や立場を考慮して、かつてはそれなりの配慮を見せていたが、今はどうだろうか。少なくとも組合員同志では分会長の仕事を「ワークシェア」してほしい。そして、分会(長)を盛り上げてほしい。

◆これでやるぞ!の確認

年度初めの組合の大切な仕事として欠かせない分会の仕事のひとつとして、校長への県下統一申し入れがある。これは「2011年度学校運営と勤務条件に関する」もので、学校運営と勤務条件の分野で11項目から成る。管理職の果たすべき役割はきわめて大きいということを踏まえ、申し入れ項目は管理職が踏定するような内容にはなっていない。いわば労使が互いに「よし!これで一年やっつけよう!」というものである。前向きに4月15日頃を目途に成功させたい、職場の総意で。

いづれにしても組合で人間関係を築くという観点から、声かけを行うことが求められています。

組合で人間関係を築く

「組合の先生にようこそ」で元気を楽にして声かけをしよう

に専念できるどころか、しかし、さまざまなる分掌や事務業務などに多情で再び2年生の担任との時間がとられてしまふなり、しばらく気持ちのうという日々を過ごして切り替えができません、悶々とした。「こんな管じやなかとしていた。クラスの一人。生徒ともっと活動人にN君がいた。遅刻やする時間を確保しなければ欠席が多く、当然のようば」と思うとともに、心に成績も優れず、度々注のどこかに正直、「本意を受けたいN君であるならば転職もあり得るか」という気持ちがあった。と比例するかのよう私2年生の1クラスを持つ。そうこうして1学期の「生徒を真ん中に置いて、校内競技大会。雨上がり

年度初めに当たって

生徒に光を射すような教師になることを目指し続けて

長崎県高等学校教職員組合
執行委員長 平井 秀治

N君が私の師

37年前、私は大学を卒業と同時に離島の大きな高校に勤務した。1年目、教科やクラスの指導で、私も強く望んだ。生徒も保護者も、私が買ったひたりN君がやっていた光景に私は胸を熱くした。それと同時にいままで教師として何をやってきたのかと自身が情なくなつた。

光が当たらないような評価ばかり受けていたN君。そしてその延長で見ていた私。

